# 構造計算書

建築物名称: 相馬200615\_ST2



プログラムの所有者 :株式会社 構造ソフト

プログラム使用契約者:株式会社 アイ. テック

プログラム 実行機種:

プログラムの名称:

プログラム実行OS: Windows 10

技術基準解説書: 2007年版

設計者:

構造設計事務所名:	
担当者名:	
建築士登録番号:	
連絡先・電話番号:	
構造設計協力事務所名:	
担当者名:	
建築士登録番号:	
連絡先・電話番号:	

# 目次

§ 1.プログラムの使用状況3
§ 1.1.メッセージ一覧3
§ 1. 1. 1. メッセージの分類3
§ 1.1.1.1.適用範囲外メッセージ3
§ 1. 1. 1. 2. 警告メッセージ3
§ 1. 1. 1. 3. 注意メッセージ3
§ 1. 1. 1. 4. 要確認メッセージ3
§ 1. 1. 2.メッセージの詳細3
§ 1. 1. 2. 1. 応力計算メッセージ3
§ 1. 1. 2. 1. 1. 適用範囲外メッセージの一覧3
§ 1. 1. 2. 1. 2. 警告メッセージの一覧3
§ 1.1.2.2. 断面計算メッセージ4
§ 1. 1. 2. 2. 1. 注意メッセージの一覧4
§ 1.1.2.3. 保有水平耐力計算メッセージ4
§ 1. 1. 2. 3. 1. 適用範囲外メッセージの一覧4
§ 1. 1. 2. 3. 2. 注意メッセージの一覧4
§ 2. 荷重・外力5
§ 2.1. 地震力5
§ 2.1.1.建築物重量と地震力5
§ 2. 1. 1. 1. 建築物重量・設計用層せん断力5
§ 3. 断面検定6
§ 3.1. 短期検定比図6
§ 4. 層間変形角・剛性率13
§ 4.1. 層間変形角・剛性率13
§ 5. 保有水平耐力14
§ 5.1. 各階の保有水平耐力の検討14
§ 5. 1. 1. 必要保有水平耐力と 保有水平耐力の 比較表14
§ 5. 1. 1. 1. X方向左加力14
§ 5. 1. 1. 2. X方向右加力14
§ 5. 1. 1. 3. Y方向左加力14
§ 5. 1. 1. 4. Y方向右加力14
利用者証明書15

## § 1. プログラムの使用状況

# § 1.1. メッセージ一覧 § 1.1.1. メッセージの分類

§ 1.1.1.1. 適用範囲外メッセージ

適用範囲外メッセージは、建築基準法上における法令・告示や諸基規準を満足していないことを示します。

- \* データ読み込みメッセージ数 = \* 準備計算メッセージ数 = \* 応力計算メッセージ数 = \* 断面計算メッセージ数 = \* 保有水平耐力計算メッセージ数 =
- § 1.1.1.2. 警告メッセージ

警告メッセージは、設計者による設定の根拠や計算結果に対して所見の記載が必要であることを示します。

- \* データ読み込みメッセージ数 = 0 \* 準備計算メッセージ数 = 0 \* 応力計算メッセージ数 = 1 \* 断面計算メッセージ数 = 0 \* 保有水平耐力計算メッセージ数 = 0
- § 1.1.1.3. 注意メッセージ

注意メッセージは、設計者や審査者に伝えた方が良い事項を示します。所見の記載は必要としません。

- \* データ読み込みメッセージ数 = \* 準備計算メッセージ数 = \* 応力計算メッセージ数 = \* 断面計算メッセージ数 = : \* 保有水平耐力計算メッセージ数 =
- § 1.1.1.4. 要確認メッセージ

要確認メッセージは、入力ミスあるいは計算結果に問題があることを示します。データを修正して再度計算を行う必要があります。

- \* データ読み込みメッセージ数 = \* 準備計算メッセージ数 = \* 応力計算メッセージ数 = \* 断面計算メッセージ数 = \* 保有水平耐力計算メッセージ数 =
- § 1.1.2. メッセージの詳細
- § 1.1.2.1. 応力計算メッセージ § 1.1.2.1.1. 適用範囲外メッセージの一覧

. 番号 メッセージ 

§ 1.1.2.1.2. 警告メッセージの一覧

番号 メッセージ 2316 層間変形角が 1/200を 超えている

#### § 1.1.2.2. 断面計算メッセージ § 1.1.2.2.1. 注意メッセージの一覧

番号 ゙゚メッセージ 22 22 22 23 13 12 22 22 22 22 23 14 12 15 14 12 3469 階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階階 軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 |軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸軸 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469 3469

#### § 1.1.2.3. 保有水平耐力計算メッセージ § 1.1.2.3.1. 適用範囲外メッセージの一覧

# § 1.1.2.3.2. 注意メッセージの一覧

3604 1荷重増分での最大収斂計算回数を超えているため、荷重増分の分割を細かくする必要がある (X方向L加力) 3604 1荷重増分での最大収斂計算回数を超えているため、荷重増分の分割を細かくする必要がある (X方向R加力)

# § 2. 荷重・外力

§ 2.1. 地震力 § 2.1.1. 建築物重量と地震力

§ 2.1.1.1. 建築物重量・設計用層せん断力

Q : 地震時層せん断力(Q=G·ΣW)
(Gの直接指定がある場合はQ=GINΣW)
GIN: 層せん断力係数の直接指定
QIN: 層せん断力の直接指定
Pi : 剛床の外力直接指定
Pd : 剛床の設計用層せん断力(\*付は部分地下の部分)
W/A: 単位面積当り建物重量
(W/Aの算定時のWには積雪の重量を含まない)
Co : 標準層せん断力係数 Z : 地域係数
T : 一次固有周期 (sec)
Rt : 振動特性係数
W : その階の建物重量 (kN)
Σ W : その階より上部の建物重量の和(kN)
α i : Σ W/W(W地上部分の建物重量の和)
Ai : 分布係数
G : 層せん断力係数
K : 水平震度(地下階・塔屋階のみ) (kN) (kŊ (kŊ (kŊ (kN/m2)

Z = 1.00 第 2種地盤 (Tc = 0.600 sec) 一次固有周期計算用建物高さ 12.750(m)

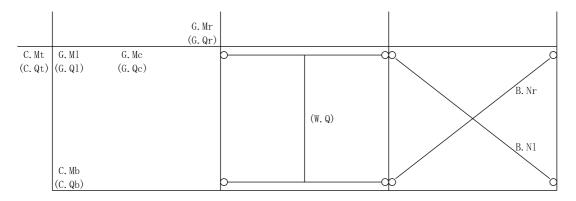
Ţ	X方向	X 方向】 T = 0.382(sec)			00 一次固有周期計算用建物高さ(S部分) 12.750(m) Co = 0.20						J. 200		
Ţ	階	VŸ	ΣW	αί	Ai	G	K	q	GIN	QIN	Pi	Qd	W/A
Ţ	3F	2661	2661	0. 436	1. 384	0. 277	0. 000	737	( 0. 000)	0	0	737	13. 1
Ţ	2F	1666	4327	0. 709	1. 171	0. 234	0. 000	1013	( 0. 000)	0	0	1013	8. 2
Ţ	1F	1778	6105	1. 000	1. 000	0. 200	0. 000	1221	( 0. 000)	0	0	1221	7. 6
Ţ	基礎	4279	10383										Ţ

[ Y7	方向】	T = 0.3	382( sec)	Rt = 1.00	00 一次固有周期計算用建物高さ(S部分) 12.750(m) Co = 0.200							. 200	
階		/V	ΣVV	αί	Ai	ā	K	Q	GIN	QIN	Pi	Qd	W/A
3F	-	2661	2661	0. 436	1. 384	0. 277	0. 000	737	(0.000)	0	0	737	13. 1
2F	:	1666	4327	0. 709	1. 171	0. 234	0. 000	1013	(0.000)	0	0	1013	8. 2
1F		1778	6105	1. 000	1. 000	0. 200	0. 000	1221	(0.000)	0	0	1221	7. 6
基础		4279	10383	<del></del>									

# § 3. 断面検定

## § 3.1. 短期検定比図

### 【凡例】



G. M1 = 梁左端と 1/4 端の曲げ検定比の最大値 G. Mr = 梁右端と 3/4 端の曲げ検定比の最大値

G.Mc = 梁中央曲げ検定比

G. Q1 = 梁左端と 1/4 端のせん断検定比の最大値

G. Qr = 梁右端と 3/4 端のせん断検定比の最大値

G. Qc = 梁中央せん断検定比

C.Mt = 柱頭(杭頭)曲げ検定比

C. Mb = 柱脚(杭脚)曲げ検定比

C.Qt = 柱頭(杭頭)せん断検定比

C. Qb = 柱脚せん断検定比

W.Q = 耐力壁せん断検定比

B. Nr = 右上がりブレース軸検定比 B. N1 = 左上がりブレース軸検定比

[\*] の表記は断面計算が行われていないことを示します。

### 支持条件表示記号

△ ピン△ ローラー

毎回転バネ

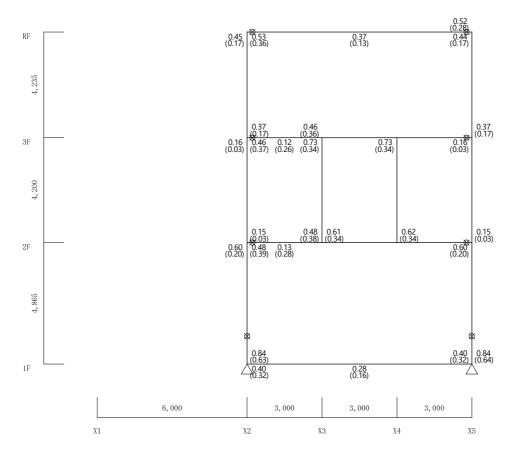
♦ 鉛直バネ

**-**^ 水平バネ

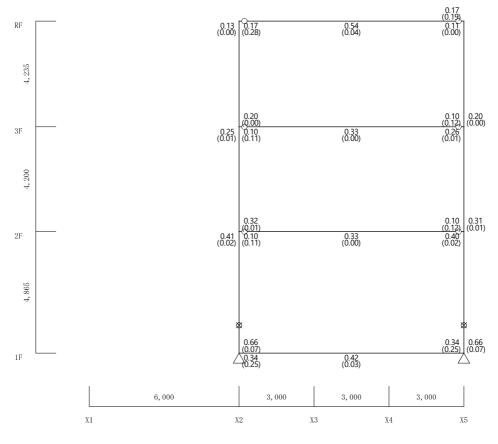
**‴** 固定 ● 回転固定

接合条件表示記号

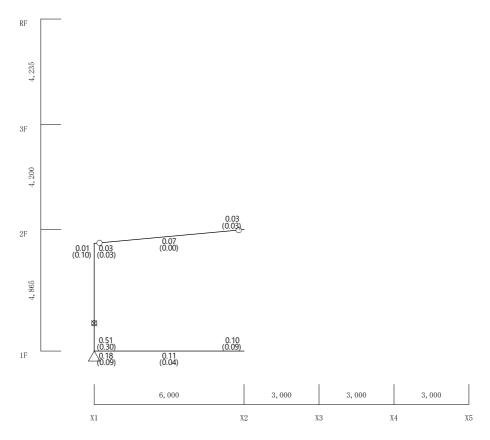
※ 半剛○ ピン



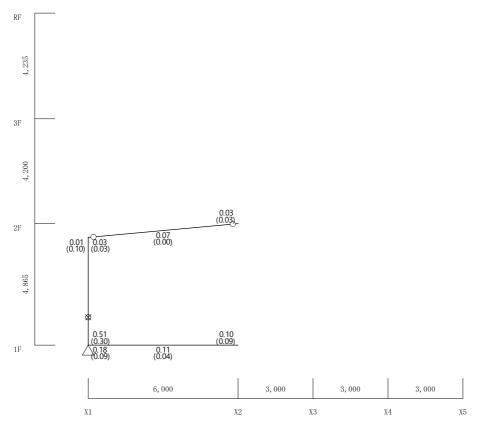
〈 Y1 〉 短期検定比図(スケール:1/151)



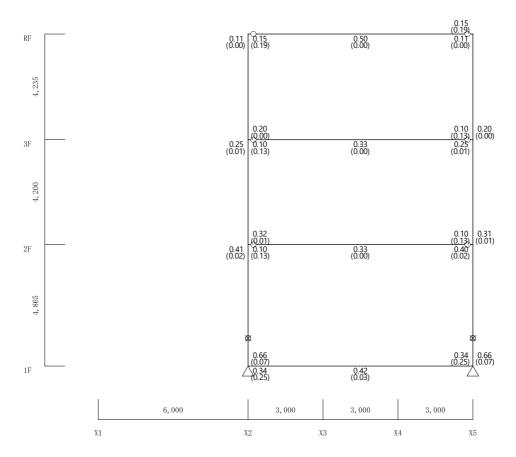
〈 Y2 〉 短期検定比図(スケール:1/151)



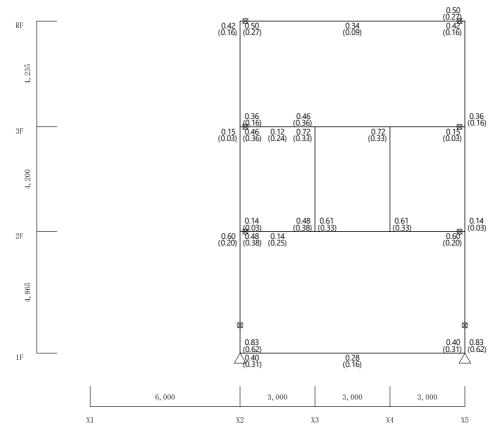
〈 Y3 〉 短期検定比図(スケール:1/151)



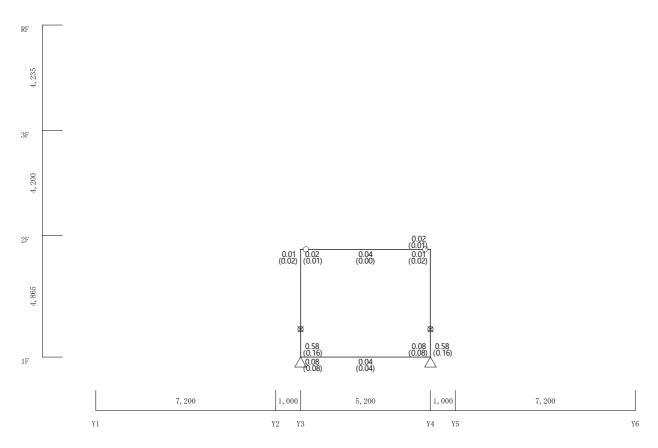
〈 Y4 〉 短期検定比図(スケール:1/151)



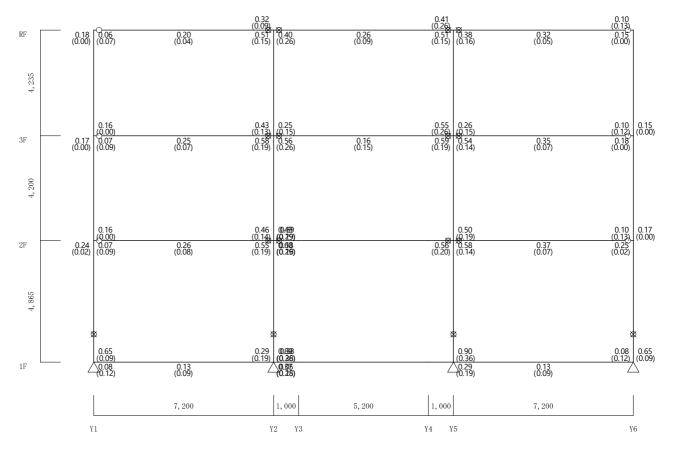
〈 Y5 〉 短期検定比図(スケール:1/151)



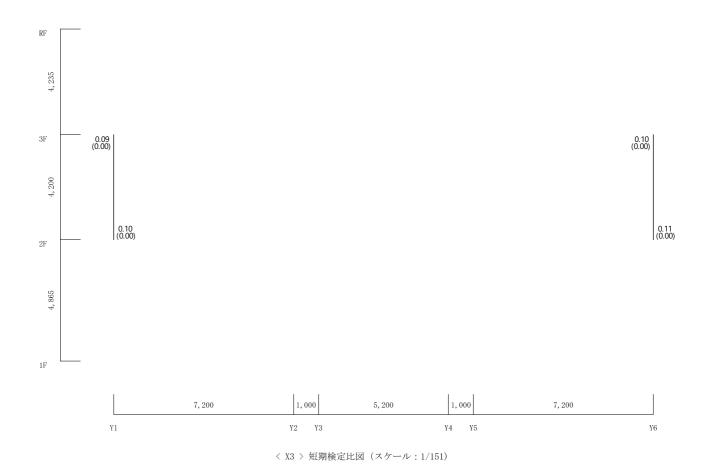
〈 Y6 〉 短期検定比図(スケール:1/151)

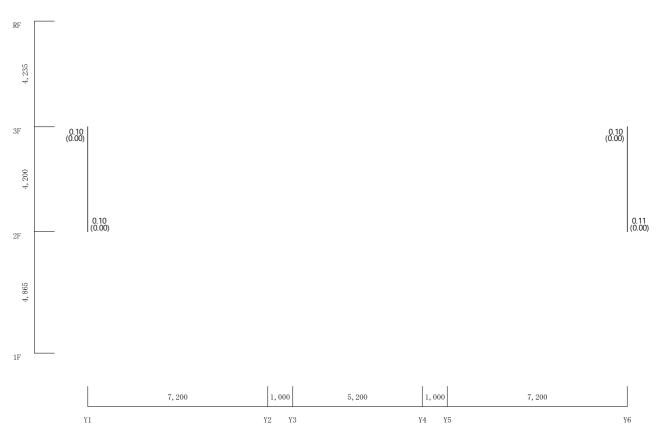


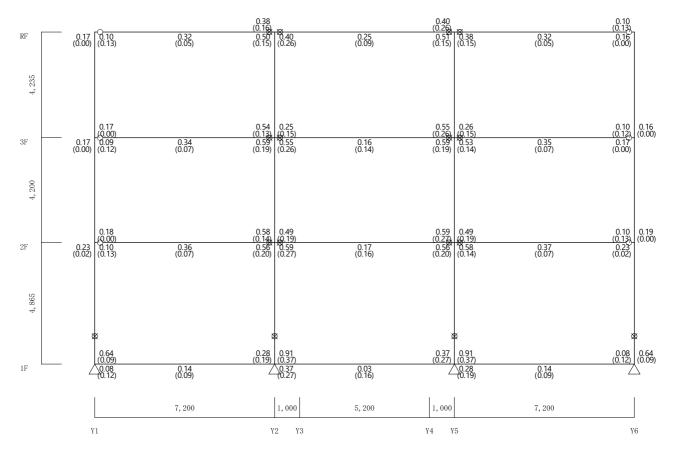
< X1 > 短期検定比図 (スケール:1/151)



〈 X2 〉 短期検定比図(スケール:1/151)







〈 X5 〉 短期検定比図 (スケール:1/151)

# § 4. 層間変形角・剛性率

# § 4.1. 層間変形角・剛性率

Q : 層せん断力 (kN) d : 層間変位 (cm) h : 階高(直接入力した値は # 印で示す) (cm) d/h: 層間変形角(剛性率用) Rs : 剛性率 Fs : 剛性率に応じた割増係数

層間変位、層間変形角は剛心位置の値 ()内は雑壁を無視したときの値を示す 剛性率の採用値: 雑壁無視の値

(採用値を \* 印で示す)

階	Q	d	h	d/h	Rs	Fs	階	Q	d	h	d/ł		Rs	Fs
3F	737	2. 8439 ( 2. 8439)	420. 0	1/ 147 (1/ 147) (	0. 842 * 0. 842) (	1. 000   1. 000)	3F	737	3. 0334 ( 3. 0334)	420. 0	1/ 13	8 8) (*	1. 101 1. 101) (	1. 000
2F	1013	1. 9440 ( 1. 9440)	420. 0	1/ 216 (1/ 216) (	1. 231 * 1. 231) (	1. 000   1. 000)	2F	1013	3. 8924 ( 3. 8924)	420. 0		<del>+</del> - 7 7) (*	0. 858 0. 858) (	1. 00 1. 00
1F	1221	2. 5820 ( 2. 5820)	420. 0	1/ 162 (1/ 162) (	0. 927 * 0. 927) (	1. 000   1. 000)	1F	1221	3. 2087 ( 3. 2087)	420. 0		0 0 (*	1. 041 1. 041) (	1. 000 1. 000
地震師	, 身 X 方向 R	加力】		+			【地震	e時 Y 方向 R	加力】		+	+-		
地震  階	サス方向 R サーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	加力】 d	 h	+d/h	Rs	Fs	+ + 【 地窟 + +   階	e時 Y 方向 R + Q	加力】 d	⊢ ⊢ h	+ + d/h	+-	Rs	  Fs
	++		420. 0	+	0. 842	1. 000	+ +	+	d +	h h 420. 0	1/ 13	+-	1. 101	1. 00
 階	Q ++	d 	420. 0	1/ 147	0. 842 * 0. 842) (	1. 000   1. 000)   1. 000	· +   階 - +	Q+	d +	<b></b>	+ 1/ 13 (1/ 13 + 1/ 10	8 8) (*	1. 101 1. 101) ( 	1. 00

# § 5. 保有水平耐力

# § 5.1. 各階の保有水平耐力の検討 § 5.1.1. 必要保有水平耐力と保有水平耐力の比較表

Qud: 地震力によって生じる水平力(kN) Qun: 必要保有水平耐力(kN) Qu: 保有水平耐力(kN) RQu: 保有水平耐力時層間変形角

### § 5.1.1.1. X方向左加力

保有水	+ 保有水平耐力の決定条件:層間変形角が指定値に達した										
階   和	重別   Ds値	i   Fes値	Qud	Qun	Qu	Qu/Qun	判定	RQı			
3F   S 2F   S 1F   S	5   0. 2 6   0. 3 7   0. 3	1. 000	3684 5066 6105	921 1520 1831	1363 1874 2258	1. 48   1. 23   1. 23	CK CK	1/75   1/96   1/81			

## § 5.1.1.2. X方向右加力

保有水平耐力の決定条件:層間変形角が指定値に達した										
階   種別	Ds値	Fes値	Qud	Qun	Qu	Qı/Qın	判定	RQu		
	0. 25 0. 30 0. 30	1. 000 1. 000 1. 000			1874	1. 48   1. 23   1. 23	άK	1/75   1/96   1/80		

### § 5.1.1.3. Y方向左加力

保有水平耐力の決定条件:層間変形角が指定値に達した											
階   種別	階   種別   Ds値   Fes値   Qud   Qun   Qu   Qu/Qun   判定   RQu										
3F   S 2F   S 1F   S	0. 25 0. 25 0. 30	1. 000 1. 000 1. 000		1266	1050   1444   1740	1. 14   1. 13   0. 94		1/98   1/75   1/105			

## § 5.1.1.4. Y方向右加力

	保有水平耐力の決定条件:層間変形角が指定値に達した 											
			Fes値				Qı/Qın	判定	RQu			
3F   2F   1F	S S S	0. 25 0. 25 0. 30	1. 000 1. 000 1. 000	3684 5066 6105	921 1266 1831	1050   1444   1740	1. 14 1. 13 0. 94	OK OK NG	1/98   1/75   1/105			



# 利用者証明書

2007年6月20日に施行された建築基準法施行令第82条に規定する保有水平耐力計算及び建築基準法施行令第82条の6に規定する許容応力度等計算を行う計算プログラム「BUILD.一貫V」の最新バージョンを使用できる環境にある利用者であることを証明します。

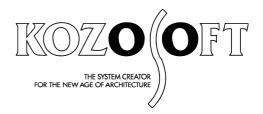
ユーザ - Nb. : 7146

契約者名:株式会社 アイ. テック

住 所 :東京都中央区日本橋蛎殼町1-2-10

発行日 : 2023年3月30日

有効期限:2023年9月30日



# 株式会社 構造ソフト

115-0015 東京都北区赤羽 2-51-3 NS3 ビル

### 「注意事項 ]

この構造計算書の原本はプロテクトが施された PDF ファイルです。印刷はできますが、編集やコピーはできません。この PDF ファイルを何らかの方法で改ざんしたり、編集をした場合は違法となります。編集は偽装とみなされる恐れがありますので、絶対に行わないで下さい。

【 この頁は「BU LD. 一貫 V 」の計算による最終頁です。計算終了時刻: 2023/03/30 13: 56: 21 】